ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL 075-771-6051（代表） FAX 075-746-3366
rohmtheatrekyoto.jp

2020（令和 2）年 11 月 4 日 報道発表資料
［本リリース発信元］ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

ロームシアター京都 2020 年度自主事業［演劇、参加／学び］
地域の課題を考えるプラットフォーム
「劇場で考える。支えること、支えられること
―舞台作品『Pamilya (パミリヤ)』の映像上映と関連プログラム」

『Pamilya（パミリヤ）』撮影：富永亜紀子

地域社会と劇場の双方向的なコミュニケーションを目指すプログラム
舞台作品の映像上映を通して、考える場を作ります

2020 年 11 月 13 日（金）～15 日（日）

ロームシアター京都　ノースホール

［本リリースに関するお問合せ先］
ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） 広報担当：松本、長野
電話：075-771-6051（9:00～17:00） FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekyoto.jp

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL 075-771-6051（代表） FAX 075-746-3366
rohmtheatrekyoto.jp

「地域の課題を考えるプラットフォーム」は、地域と劇場の双方向的なコミュニケーションを促進させるため、ロームシアター京都が 2017 年度から実施しているプロジェクトです。2019 年度、2020 年度を通じて、誰にでも開かれた劇場のあり方を模索、実践しています。昨年度に引き続き、アドバイザーに長津結一郎氏（九州大学大学院芸術工学研究院助教）、市内福祉施設とのコーディネーターに奥山理子氏（Social Work/Art Conference ディレクター）を迎え、福祉施設等へのヒアリング、市民と共に考えるシンポジウムのほか、特定の演目への障害者の鑑賞支援サポートを実施します。

今年度のプログラムの一つである**「劇場で考える。支えること、支えられること―舞台作品『Pamilya (パミリヤ)』の映像上映と関連プログラム」**は、ある舞台作品を手がかりに、地域社会の中にある課題について考え、参加者同士が意見交換する場を作る試みです。

今回上映する舞台作品『**Pamilya（パミリヤ）**』は、京都を拠点に活動する演出家・村川拓也が、福岡県でのリサーチを経て創った作品です。主人公は、実際に福岡県の特別養護老人ホームで働くフィリピン人介護士の女性。舞台上には主人公本人が登場し、日々の仕事の様子を「再現」します。

『Pamilya（パミリヤ）』というタイトルは、タガログ語で家族を意味します。主人公は、フィリピンに住む大好きだった祖母の死に立ち会えなかったと言います。「たったひとりのおばあさんの面倒もみられないのに、どうやって利用者さんたちの面倒をみることができる？」

人間は、誰もが支える側にも支えられる側にもなりますが、その関係は社会の変化に伴って大きく変わります。「家族」という枠組みは、変わりゆく関係性の縮図と言えるかもしれません。作品の上映、レクチャーやシンポジウム、そして参加者同士の語り合いを通して、少子化、高齢化が進む社会における、支えること、支えられることについて考えます。

■実施スケジュール

・11 月 13 日（金）19 時 30 分～　上映＋演出家によるアフタートーク
・11 月 14 日（土）13 時 30 分～　上映＋レクチャー　※終了予定 17 時
・11 月 14 日（土）19 時 30 分～　上映＋演出家によるアフタートーク
・11 月 15 日（日）13 時 30 分～　上映＋シンポジウム　※終了予定 17 時 30 分

13 日（金）		19:30 上映（1）＋アフタートーク
14 日（土）	13:30 上映（2）＋レクチャー	19:30 上映（3）＋アフタートーク
15 日（日）	13:30 上映（4）＋シンポジウム	

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL 075-771-6051（代表） FAX 075-746-3366
rohmtheatrekyoto.jp

■舞台作品『Pamilya（パミリヤ）』について（公演映像を上映）

演出：村川拓也
ドラマトゥルク：長津結一郎
出演：ジェッサ・ジョイ・アルセナス
映像撮影・編集：仁田原力、とうどう美由紀
※上映時間：約 75 分

村川拓也（むらかわ たくや）
演出家・映像作家。1982 年生まれ。京都市在住。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。1 人のキャストとその日の観客 1 人を舞台上に招き、介護する／されることを舞台上に再現する『ツァイトゲーバー』（2011）は国内外で再演され、2014 年には HAU Hebbel am Ufer（ベルリン）の「Japan Syndrome Art and Politics after Fukushima」にて上演された。村川から事前に送られてきた手紙（指示書）に沿って舞台上の出演者が行動する『エヴェレットゴーストラインズ』（2013）などの作品群は、虚構と現実の境界の狭間で表現の方法論を問い直し、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。2016 年には東アジア文化交流使（文化庁）として中国・上海／北京に滞在しワークショップを行う。近作、『インディペンデント リビング』は KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017 で初演し、テアターフォルメン（ブラウンシュバイク、2018）に招聘された。セゾン文化財団ジュニア・フェロー、京都造形芸術大学舞台芸術学科 非常勤講師。

■関連プログラムについて

○レクチャー：11 月 14 日（土）『Pamilya（パミリヤ）』の公演映像上映（13:30～）後
日本の介護現場における外国人介護士について
講師：カルロス　マリア・レイナルース（龍谷大学教授）

○シンポジウム：11 月 15 日（日）『Pamilya（パミリヤ）』の公演映像上映（13:30～）後
介護と家族について
パネリスト：菅野優香（同志社大学准教授）、河本歩美（高齢者福祉施設 西院 所長）、渡邉琢（日本自立生活センター 介助コーディネーター）

ファシリテーター：長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院 助教）／奥山理子（Social Work/Art Conference ディレクター）

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL 075-771-6051（代表） FAX 075-746-3366
rohmtheatrekyoto.jp

■登壇者プロフィール

・カルロス　マリア・レイナルース
フィリピン国ブラカン州出身。１９８７年に国費留学生として来日し、神戸大学で博士（経済学）取得。現在龍谷大学国際学部教授。主な研究テーマは日本におけるフィリピン人介護士、とりわけ彼らの日本の介護労働市場での定着の課題、およびフィリピン人看護師の多段階的国際移動。最近、在日フィリピン人の老後の問題についても調査を行っている。今回は在日フィリピン人にとって、「家族」とはどういう意味を持っているのかについて考えてみたい。

・菅野優香（かんの ゆうか）
同志社大学教員。専門分野は、視覚文化研究、クィア・スタディーズ。映像におけるジェンダーやセクシュアリティ、人種の問題に関心を寄せ、クィア・シネマや LGBTQ 映画祭をテーマに、映像とアクティビズム、コミュニティの生成などの問題に取り組んでいる。主要論文に「政治的なことは映画的なこと― 1970 年代フェミニスト映画運動」『思想』(2020 年 3 月号)、「コミュニティを再考する―クィア・LGBT 映画祭と情動の社会空間」『クィア・スタディーズをひらく』（晃洋書房、2020 年）など。

・河本歩美（こうもと あゆみ）
（福）京都福祉サービス協会　「高齢者福祉施設　西院」所長
1994 年より介護職として、法人に勤務。2007 年より、現職場で管理者として従事する。
介護が必要となった高齢者が、その人らしく輝き続けるための仕掛けとして、「はたらく」活動を通して、高齢者が活躍できる機会づくりに取り組んでいる。最近は、異業種連携や山間地域の活性など、福祉の枠を超えることで高齢者を含む誰もが暮らしやすい社会づくりになると信じて活動に励んでいる。

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL 075-771-6051（代表） FAX 075-746-3366
rohmtheatrekyoto.jp

・渡邉琢（わたなべ たく）
1975 年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士前期課程修了。
2000 年、日本自立生活センターに介助者登録。2004 年度に同センターに就職。以降、障害者の自立生活運動や介護保障運動に事務局兼介助者として尽力。
現在、日本自立生活センター事務局員、NPO 法人日本自立生活センター自立支援事業所介助コーディネーター、ピープルファースト京都支援者。
著書に『介助者たちは、どう生きていくのか』(生活書院、2011 年)、『障害者の傷、介助者の痛み』（青土社、2018 年）

■開催概要

事業名：地域の課題を考えるプラットフォーム「劇場で考える。支えること、支えられること―舞台作品『Pamilya (パミリヤ)』の映像上映 と関連プログラム」

開催日：2020 年 11 月 13 日（金）～15 日（日）

会場：ロームシアター京都（京都市左京区岡崎最勝寺町 13） ノースホール

料金（チケット）：
一般 1,000 円
ユース（25 歳以下） 500 円
高校生・18 歳以下 無料

チケット取扱：
■オンラインチケット ２４時間購入可 ※要事前登録（無料）
https://www.e-get.jp/kyoto/pt/
■ロームシアター京都 チケットカウンター
TEL.075-746-3201（窓口・電話とも１０：００～１９：００／年中無休 ※臨時休館日を除く）
■京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231
（窓口・電話とも１０：００～１７：００／第１・３月曜日休館 ※休日の場合は翌日）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
協力：一般社団法人 HAPS（Social Work/Art Conference）

お問合せ：ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL 075-771-6051（代表） FAX 075-746-3366
rohmtheatrekyoto.jp

【参考】「地域の課題を考えるプラットフォーム」その他の事業について

■ロームシアター京都レパートリー作品 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』公演（11 月 2 日・3 日）での観劇サポート

以下の観劇サポートを実施しました。

■みえない・みえづらいお客様へ…11/3 （火・祝）14 時の回
①鑑賞を補助する音声ガイドの提供　②ご希望の方には地下鉄東西線「東山駅」からの送迎を実施

■きこえない・きこえづらいお客様へ…11/3 日（火・祝）14 時の回
①ポータブル字幕機の提供　②磁気コイル付補聴器・人工内耳を装用の方に、舞台音声を伝える機器を用意（補聴器をお持ちでない方には専用受信機を貸出）

■「CONNECT⇄　」～芸術・文化・デザインをひらく～（文化庁委託事業「令和 2 年度障害者による文化芸術活動推進事業」）演劇ワークショップ「岡崎地域をガイドする」

ロームシアター京都がある岡崎地域で実施される「CONNECT⇄　」は、障害のあるなしに関わらず、さまざまな感性・特性を持つ人たちが芸術や文化、歴史に気軽にアクセスし、さらに参加した人たち同士がつながり合い、気づきを与え合う機会となることを目指すプログラム。その一環として行う、演劇ワークショップです。

日時：2020 年 11 月 21 日（土）～ 11 月 22 日（日）各 13 時～15 時　【全 2 回】
会場：ロームシアター京都　会議室 2

講師：穴迫信一（劇作家・演出家）

定員　6 名程度
対象　中学生以上で、何かを創作すること、自分が表現することに興味のある方。2 回ともに参加できる方。※参加に際して支援が必要な方はお知らせください。※視覚、聴覚に障害のある方のサポートを行います。（手話通訳や UD トークがあります。）
応募締め切り：2020 年 11 月 10 日（火）23 時 59 分　※募集中

主催：文化庁、京都国立近代美術館
企画協力：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
協力：一般社団法人 HAPS（Social Work / Art Conference）、長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教

お問合せ・お申込み：「CONNECT⇄　」事務局（京都新聞 COM 事業局内）
（TEL）075-255-9757　（Mail）connect-art@mb.kyoto-np.co.jp